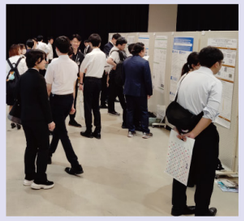
女性活躍・ダイバーシティ採用フェア開催

2026年9月5日から6日にかけて、弘前大学文京町キャンパスで開催された「令和8年度化学系学協会東北大会」のポスターセッション会場において、本学はブースを出展しました。ポスターセッションに参加した女性学生や研究者を中心に、本学の採用案内パンフレット等を配布するとともに、本学の研究環境の紹介や参加者との情報交換を行いました。

また、これまで出展した複数の学会と比較すると、今回は女性学生の参加割合が増えている印象を受け、研究活動や将来の進路に対する意識の変化や、それを後押しする環境の広がりがうかがわれました。





女性活躍・ダイバーシティ採用フェアで広告掲載

本学ではこれまで、「女性活躍・ダイバーシティ採用フェア」として各学会に展示ブースを出展し、女性研究者や若手研究者をはじめとする多様な人材に対して、公募情報の周知と応募促進に取り組んできました。

一方で、学会の開催時期が集中することを踏まえ、今回は9月6日～9日に東海大学湘南キャンパスで開催された日本機械学会2026年度年次大会、および9月8日～11日に北海道大学札幌キャンパスで開催された第87回応用物理学会秋季学術講演会において、大会プログラムへの広告掲載と採用案内ポスター展示という形式で出展を行いました。

より多くの女性、若手、外国出身者などに本学への応募を検討していただけるよう、多様性を受け入れ尊重するインクルーシブな職場環境をはじめとする本学の魅力を広く発信しました。



今後の主催事業のご案内

女性活躍・ダイバーシティ推進イベント／北東北女性研究者研究・交流フェア2026

日時：2026年10月24日(土)10:15～15:35

■第1部／講演・トークセッション「更年期をキャリアの壁にしないために」
時間：10:15～12:35
会場：岩手大学 復興祈念銀河ホール(対面開催)
講師：エッセイスト、メディアパーソナリティ　小島 慶子 氏
岩手医科大学産婦人科学講座　特任教授　小山 理恵 氏
※PI力向上研修

■ランチタイム交流会／12:50～13:40

■第2部／ポスターセッション
時間：14:00～15:35
会場：岩手大学 理工学部ものづくり協創工房(対面開催)




昨年のポスターセッションでの
交流の様子

岩手大学PI力向上研修
「ジェンダード・イノベーションとは～性差分析と交差性分析が拓く科学技術の発展～」

日時：2026年12月4日(金)15:00～17:00
開催方法：オンライン
講師：東北大学DEI推進センター副センター長・教授／
横浜国立大学インターセクショナル・イノベーション実践センター センター長・教授・学長特任補佐
佐々木 成江 氏
詳細は後日、岩手大学ダイバーシティ推進室のウェブサイト等でお知らせします。

国立大学法人 岩手大学 IWATE UNIVERSITY

［お問い合わせ］岩手大学ダイバーシティ推進室
〒020-8550　岩手県盛岡市上田3-18-8　Tel:019-621-6998　Fax:019-621-6999
Email：equality@iwate-u.ac.jp　HP:https://diversity.iwate-u.ac.jp
Twitter：@IwateU_Equality
事業サイト：https://iwatewomensleadership.iwate-u.ac.jp

事業サイト

Women's Leadership I.W.A.T.E.

Newsletter

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)
I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン

September 2026 vol.08

女性教員比率の上昇率、東北国立大でトップ(国立大学協会調査2025)

国立大学協会が2025年度に実施した「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第22回追跡調査」において、岩手大学の女性教員比率は23.5%となり、前年度から1.8ポイント増加しました。東北地区の国立大学の中で最も高く、全国85国立大学中25位となりました。(2025年5月1日現在の状況に基づく集計)

皆様からのご支援と長年の女性研究者支援の取組の結果、本学の女性教員比率は大幅に伸びています。しかし、それでもまだ2割。集団内で存在を無視されず発言が認められやすくなると言われる3割達成に向け、取組を引き続き進めていかなければいけません。

新体制で取り組む、ダイバーシティ推進のさらなる深化

2026年4月、本学では学長交代に伴い、新たな執行体制がスタートしました。本事業においても、総括責任者を新学長の山本欣郎が、事業実施責任者を新ダイバーシティ推進室長である理事・副学長の水野雅裕が務めています。

2022年度に開始した本事業も、今年度を含め残り2年となりました。これまでの取組や成果、ネットワークを基盤にしながら、新体制のもとでさらなる発展を目指してまいります。今後も、学内外のさまざまな声に耳を傾け、関係部署と連携しながら、誰もが能力を発揮し、多様な人材が活躍できる環境づくりを一層推進してまいります。

引き続き、本事業へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。


総括責任者
学長 山本欣郎


事業実施責任者
理事・副学長・
ダイバーシティ推進室長
水野雅裕

今後のダイバーシティ研究環境整備の在り方について他大学との意見交換

本学は、2022年度に本補助事業に採択されて以来、女性リーダー育成に向けたさまざまな取組を推進してきました。本補助事業は来年度から自走期間に入ることから、補助事業終了後も持続的に取組を発展させるため、同様の課題や目標を持つ他大学・他機関との連携強化を進めています。

その一環として、2026年2月に本補助事業を令和4～5年度に採択された機関との意見交換会を実施しました。全国から11機関(計34名)の参加があり、参加機関からは、資金確保の難しさや事業縮小、人材不足への懸念に加え、女性研究者支援の成果の数値化・可視化の難しさ、既存の研究者評価軸による評価のあり方、DEIの観点に立った長期的評価や継続的支援の必要性、競争的補助金に依存しない持続可能なリソース確保の仕組みづくりの必要性など、多くの課題が共有されました。

これらの意見は、文部科学省にも共有しており、今後も他大学・他機関との連携を深めながら、ダイバーシティ研究環境のさらなる充実に取り組んでまいります。


意見交換会

若手・女性クロスアポイント制度
産学連携による理系女性すそ野拡大イベント開催

本制度は、大学以外に就職している34歳以下の若手、または女性研究者を最長３年間、クロスアポイント制度で雇用するなど、ストレートなキャリアパス以外の「交叉型キャリア」による若手・女性研究者活躍を推進するものです。


モーションキャプチャーを楽しもう！

2025年度に実施した本制度では、ソニーセミソリューションズ株式会社のエンジニアであり、モバイルシステム事業部・センサーPF開発部の統括部長（当時）の菅真紀子氏を理工学部教授として迎えました。同氏の協力により、2026年3月7日に、女子中高生対象のイベント「岩手大学理工学部×ソニーのリケジョと一緒にモーションキャプチャーを楽しもう！」※を開催しました。運営チームには、ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社の複数の女性社員と、2025年10月に岩手大学理工学部に発足した「女性リーダー育成推進室」に所属する教員及び女性大学院生が参加しました。イベント参加者である女子中高生にとって、理工系分野に興味を持つ経験になったことはもちろん、本学の女性大学院生にとっても、女性の研究者や技術者として働く複数のロールモデルに触れられる経験として、また、女性大学院生同士のネットワーク構築として、貴重な機会であったと思われます。

※モーションキャプチャーを使い、アバターを操作し、ショート動画を作る体験型のイベント。

PI力（研究室主宰能力）向上研修
「誤解していませんか?合理的配慮のこと～障害の社会モデルを知る～」

2026年3月4日、「障害の社会モデル」をテーマとした講演とパネルディスカッションを行いました。インクルーシブな研究室運営を行うためには、「障害者差別解消法」の基礎となっている、障害の社会モデルの理解が役立つと考え、本研修を企画しました。


講演


パネルディスカッション

講演では、講師の松波めぐみ准教授（大阪公立大学アクセシビリティセンター）から、障害の捉え方や合理的配慮について、歴史的な背景も含め、分かりやすくお話いただきました。パネルディスカッションでは、岩手大学教育学部特別支援教育科准教授の滝吉美知香がモデレーターを務め、パネリストの松波氏と梅田ひろ子氏（株式会社アステム専務取締役・認定NPO法人障害者放送通信機構理事）から、「パネリストのお二人が当事者を理解し伴走しようとする、その思いや行動はどのように生まれるのか」「“障害のある相手と自分との間に壁を作る人”と、“障害のある相手を理解しようとする人”の違いはどこから生じるのか」等について、それぞれのご経験に基づいたお話を伺いました。当日は岩手大学の教員のほか、一般市民を含め119名の参加がありました。「自分では曖昧だった合理的配慮の考え方が、思いやりや一方的な押し付けではなく、対話と調整によって提供されるべきものと腑に落ちた」「企業側の立場、教育学的な立場、障害者権利と人権的な立場、の3つの視点から多角的に社会モデルについて理解を深めることができた」等の感想が寄せられました。

女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度　～利用者の声～

荒木 笙子／あらき しょうこ　農学部 准教授

渡航先：インドネシア



本制度の支援を受け、2026年8月19日から22日の日程にてインドネシア・ジャカルタで開催された「International Conference Asian-Pacific Planning Societies 2026」に参加し、「Comparative Study on Individual Relocation Projects for Disaster Risk Reduction: The Cases of Kumamoto Prefecture and Iwate Prefecture」という題目で口頭発表を行いました。私の研究は、災害が多発する中で、災害リスクの高い地域から事前に個別移転を行う際の支援制度を対象としたものです。国内でもその利用実態については十分に明らかになっておらず、今回は岩手県と熊本県の制度や利用実態を比較した成果を発表しました。海外の研究者に研究成果を発信し、質疑や意見交換を行うことで、研究の意義を改めて捉える機会となりました。また英語で研究内容を伝えて議論する経験は、今後国際的に研究成果を発信していく上でも大変有意義なものとなりました。滞在中には、現地の食文化やマーケットなどにも触れることができ、ジャカルタの街や文化を知る貴重な機会にもなりました。本制度によるご支援に感謝申し上げます。


セッション参加者集合写真


発表中

岩手大学女性外国人研究者招聘支援制度　～利用者の声～

芝 陽子／しば ようこ　理工学部 准教授



今年度5月23日から6月1日にかけて、女性研究者招聘支援事業により、部局間協定校である台湾国立嘉義大学からYun-Wei Lin先生を招聘しました。岩手大学で開催された国際シンポジウム（ISBB2026/ICABM）に嘉義大学から多数の教員、学生が来学する機会に合わせ、Lin先生を招聘し、岩手大学TOVLABで女性研究者キャリアセミナーを開催しました。Lin先生は、嘉義大学で上級管理職を務め、COVID-19パンデミック下で11,000人を超える学生の安全を担った経験や、女性リーダーとして、力強さや支配的な態度ではなく、共感や相手への尊重を大切にしてきたことを講演していただきました。私はLin先生のような方が大学にいることは、学生にとっても嘉義大学にとってもとても良いことだと感じました。

後半では私自身も基礎研究の研究環境について講演しました。社会課題から出発する「バックキャスト型研究」に対し、研究者の好奇心から始まる研究を「フォワードキャスト型研究」と位置づけ、後者は詳細なメカニズム研究から始まることが多いことを説明し、両者の特徴を生かしながら共同研究を進める私自身の取り組みを紹介しました。嘉義大学の教員や女性大学院生も参加し、キャリアや研究環境について意見交換する貴重な機会となりました。


Lin先生講演会



後半の意見交換会